

明日への情熱

太陽光発電設備の設計や販売・施工、メンテナンスなどを手掛けるエコスマイル(東田顕史社長)は、主力事業の一つである土地付き太陽光発電事業を強化している。設備費用を抑えながらも高品質な国産パネルを採用。



東田顕史社長

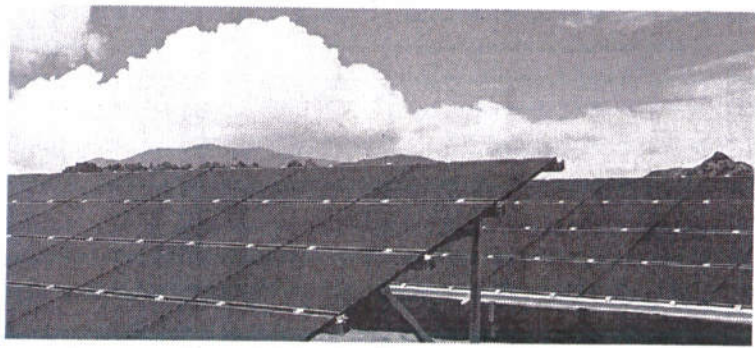
エコスマイル

東京五輪が開かれる2020年をめどに、売上高を現行の倍以上にあたる100億円に引き上げる方針だ。

設立は09年7月。もとは会社勤めの営業職で全

土地付き太陽光発電を強化

に、土地付きの太陽光発電パネルの販売をスタート。海外メーカー製を提案した時期もあったが、15年以降は、昭和シェルグループのソーラーフロ



提案に力を入れる土地付き太陽光発電所

ンティア(本社 東京都)製に絞った。「顧客の強い要望を受けて決断した。実発電量と品質が良く、投資家らに人気がある。突然日本から撤退するなどの海外メーカーならではのリスクも考慮した。販売したら終わりではなく、メンテナンスも通じて永く関係を続けるためにも、安心、現在の1キワ時あた

高品質な国産パネルで差別化

こうした中で同社は、設備費用を低減する取り組みに注力。特別な営業は行わず、自社ウェブサイトを通じて集客し、全国から引き合いを得ている。

新春企画では、設備費用の大幅値下げに加え、電気を変換するパワーコンディショナーと呼ばれる装置の保証期間を15年に延長した。今後も環境変化に即応しながら、業容を拡大していく。

<メモ> 本社=名古屋市中区栄・名古屋商工会議所ビル6階▽設立=2009年7月▽資本金=5000万円▽電話052・222・3785



量産化をめざすナノチューブ

小型・高効率燃料電池部材技術の開発」で、事業化リーダーを担当。燃料電池の軽量化に向けた素材開発などに取り組んでいる。



あいさつする川瀬会長

び、防除・駆除業者としてのレベルをさらに高めなければならぬ」と強調した。また、今年9月に中部大応用生物学部の宗啓弘明学部長が「外部から見たPCO(ペストコントロール事業者)に思うこと」をテーマに講演した。